

オリンピック・パラリンピックに 合わせて各国首脳が訪日 7月22日(木)～9月5日(日) 東京

inout
&

菅義偉総理大臣は、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に合わせて訪日したアルメニア、エストニア、コンボ、スイス、フランス、ポーランド、モンゴル、モンテネグロの各首脳とそれぞれ会談を、米国大統領夫人と懇談を行った。また、米国副大統領夫君、トルクメニスタン副首相、南スーダン副大統領、世界保健機関(WHO)事務局長、国連難民高等弁務官から表敬訪問を受けた。



迎賓館でマクロン大統領と談笑する菅首相
(首相官邸Twitter)

各会談などでは、東京大会への支持や「自由で開かれたインド太平洋」に関して緊密に連携を進めることを確認するとともに、新型コロナウイルスの対応を含む幅広い国際情勢について意見交換を行った。特に次期オリンピック・パラリンピック競技大会開催国であるフランスのマクロン大統領とは、練習艦隊「ジャンヌ・ダルク」の日本寄港を始めとする安全保障・防衛分野における緊密な連携に加え、二国間経済関係、気候変動などのグローバルな課題、地域情勢などにおいて協力していくことで一致した。

茂木外務大臣の中東地域訪問

8月15日(日)～24日(火) エジプト、パレスチナ、イスラエル、
ヨルダン、トルコ、イラク、イラン、カタール(訪問順)



イランのライースィ新大統領を表敬する茂木外務大臣

茂木敏充外務大臣は、8月15～24日、中東を訪問し、各国首脳や外相らと会談した。アフガニスタン情勢、中東和平、イラン核問題など、中東地域で緊張が継続する中、地域の安定に向けた緊密な連携を確認した。現下のアフガニスタン情勢については、特に同国と強い結びつきのあるトルコ、そしてイラン、さらに地政学的に重要な場所に位置するイラクとの間で緊密な連携を行うことを確認した。また、イランではライースィ大統領就任後初の先進主要国・アジア要人との会談であり、日本とイランの伝統的な友好関係を今後も強化することを確認した。